

第4回渡良瀬遊水地湿地保全・再生 モニタリング委員会を開催しました

平成24年3月8日(木)14:00～16:30に、栃木県栃木市の栃木市藤岡遊水池会館において「第4回渡良瀬遊水地湿地保全・再生モニタリング委員会」を開催しました。

◆モニタリング委員会の概要

今回は5人の委員にご出席いただきました。

【委員名簿】(五十音順、敬称略)

青木 章彦	作新学院大学女子短期大学部	教授
一色 安義	渡良瀬遊水地野鳥観察会	会長
大川 秀雄	とちぎ昆虫愛好会	幹事
大和田 真澄	栃木県植物研究会	会員
高松 健比古	渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会	代表世話人

はじめに、事務局より第3回委員会での指摘事項と対応を報告し、委員の確認を頂きました。次いで、試験施工エリアにおけるH23年度のモニタリング結果及びH24年度のモニタリング計画を報告し、データとりまとめ時の留意点、モニタリングの方向性などについて助言やご指導を頂きました。また、試験施工エリアの施工計画と平成25年度以降の掘削計画の報告・説明が行われました。

【委員会の様子】



○委員会での意見など

【平成 23 年度モニタリング調査結果について】

- 渡良瀬遊水地では、オギなどが生育するやや乾いた湿潤環境で希少植物が多く確認されており、どのような湿地環境の創出を目指すのかコンセンサスを得ることが重要である。
- 今回調査では植物を主体とした調査が実施されているが、掘削による湿地環境の創出は動物の生息にも寄与していると考えられる。今後は、動物の生息状況についても調査を行うとよい。

【平成 24 年度モニタリング計画について】

- 効果的な調査を行い、良好な自然環境を保全する方法についても把握することが重要である。

【平成 25 年度以降の掘削計画について】

- 環境学習フィールドでの湿性植物の生育状況を見ると、基本掘削高は現状の平均地下水水位よりも若干低くすると良い。
- 表土の利用はツルマメ等のツル植物が被覆し、湿性植物が生育できない可能性があるため、表土の利用については注意が必要である。
- 掘削時の河岸勾配については、環境学習フィールドの植生分布を参考に設定しているが、環境学習フィールドではセイタカアワダチソウの伐根を行っていることから、環境学習フィールドのデータを直接的に設計根拠とすることは難しい。

モニタリング調査結果・計画や今後の掘削形状について、様々なご意見・助言をいただきました。

頂いたご意見、助言を反映させて、今後のモニタリングや掘削形状の検討を行っていきます。